



# 「大岩ヶ岳・百丈岩」

## 大岩ヶ岳

孫の遙太朗は、2015年の9月に満6才になった。私もこの年頃に初登山をし、それが記憶に強く残っているので、そろそろ一緒に登山をしてもいい頃だ。9月23日（水）秋分の日、彼らの住んでいる三田からも、私の住んでいる宝塚からも近い大岩ヶ岳を登ることにした。父親の州人も一緒である。下の地図は付近の概念図と歩行軌跡である。



大岩ヶ岳 歩行軌跡  
黄色の線

西谷の森公園の駐車場で待ち合わせをし、丸山湿原への道の途中にある駐車場に向かった。前は工事中で駐車できなかったが、もう使えるのではないかという感じがあったからである。4、5台とめられる駐車場にはもう1台がとまっていた。左下の写真は出発前の勇姿である。



出発点の駐車場



東大岩ヶ岳の登り口で

駐車場を9時半に出発。すぐに右折し、木立の中の道に入る。平坦に近い緩やかな登りの道だ。左には、丸山湿原から続く沢が流れている。遙太朗も元気におしゃべり。「コナラーアベマキ群集」という看板の前を通って、丸山西分岐へ。右に折れて大岩ヶ岳への道を歩く。この時は花が少なく、紅色の萩の花だけが目立った。遙太朗お目当ての栗の実は落ちていない。「スギーヒノキ群落」の看板を過ぎると斜度はきつくなって山道らしくなる。

やがて峠のようなところに着いた。道標があり、先に進めば、大岩ヶ岳・・引き返せば丸山湿原・・の文字が見える。そばに大きな看板があり、地図がのっている。上右の写真は、看板を見る遙太朗。看板の裏側には、誰が書いたか、マジックペンで「東大岩ヶ岳 すぐ（5分）、絶景」と書いてある。遙太朗に「5分と書いてある。行こう」と誘って登り始めた。





大岩ヶ岳への急な登り



東大岩ヶ岳頂上



登りの辛さを思い出して

この5分が曲者。ただの5分ではない。急登の5分である。遥太朗は両手両足を使って、四足の動物のような登り方。これでは確かに疲れる（左上の写真）。5分より少しかかったかもしれないが、無事東大岩ヶ岳頂上に到着。10時丁度だった。千刈貯水池の一部や羽束山も見えて、確かに絶景（上中の写真）。

頂上に座って今登ってきた道の話をしていたら、遥太朗が泣き出した。よっぽど辛かったと見える。泣いた顔を撮ろうとカメラを向けたら、両手で顔を隠した。右上の写真。涙は見せられないということか。男はつらいね。

一休みして、もとの峠に戻り、大岩ヶ岳に向かう。途中、岩山の東大岩ヶ岳が見え、「あそこに登ってきたんだぞ。すごいな」などと励ます。

大岩ヶ岳への登りはそれほどきつなく、ゆったりと登れた。10時20分到着。頂上には一人の先客（高槻からとか）が



大岩ヶ岳頂上で



ここではにこやか

いて、その人に撮ってもらったのが左の写真。大岩ヶ岳の頂上では、遥太朗も余裕の笑顔。よかったー（右の写真）。大岩ヶ岳からは三田の町も一望のもとだ。遥太朗たちの家もビルの陰ながら特定できる。頂上では、お菓子などを食べたのち、丸山湿原に向かう。

日本庭園のような松の生えた場所の下部はやや急な下りだが、遥太朗は無事通過。丸山湿原への連絡路はほぼ平らな道。遥太朗は私より元気に歩く。やがて丸山南分岐。そして丸山湿原に着いた。11時27分だった。下左写真。少し歩いてベンチのところに。仲良く語る親子。遥太朗もいっばしの語り手（下右の写真）。この時期、湿原にも花は見当たらない。6月に伸枝と来たときには、トキソウとアヤメの花が見られたのだが。

湿原の前のベンチには老夫婦がいて遥太朗の元気を褒めてくれた。



丸山湿原に到着



丸山湿原を前に

帰りは南分岐を経て西分岐へ。途中で先ほどの老夫婦と一緒にになったが、これから東大岩ヶ岳に登るという。それだったら、西分岐を左に折れるはずだが、折れずに一緒に歩いてくる。「ここで曲がらないのですか」と聞いたら、「この先から登るといい展望台に出るんですよ」と、駐車場の直前で、踏跡だけの急な滑りやすそうな坂を登って行く。奥さんはやれやれという顔。「奥さんを大事にね」と大声をかけたが、旦那は素知らぬ顔で登っていった、奥さんが「ありがとう」と、上から笑顔を見せた。



帰りはレストラン大池で食事。遥太朗は、から揚げ定食を頼んだ。これがなかなかこない。私たちが食べ終わってもこない。ようやく出てきた食事に遥太朗は食らいついた。大人でも多いと思う大きなから揚げを数個、一人で平らげてしまった。右の写真。おそろべしこの食欲。

帰り際に「また山に行こう」と言ったら、「もういやだ」と言う返事。さて次の作戦は？



## 百丈岩

JR福知山線の道場駅の南に、百丈岩（ひゃくじょういわ）と呼ばれる大きな岩がある。そばには船坂川が流れ、ハイキングコースもたくさんある。百丈岩の名は、江戸時代の「摂津名所図会」に「高さ数十丈、岩上には百畳を敷けるより名とす」とあることからきているそう。

下の写真のように、垂直な岩の壁がそそりたつことからロッククライマーに人気があり、練習場になっている。



百丈岩 歩行軌跡



百丈岩

孫の遥太朗との山行第二弾はこの百丈岩になった。もう山には行かない、とか言っていた遥太朗も父親の州人の説得が功を奏したのか、すんなりこの山行に参加した。

2015年10月17日。道場駅に9時半の待ち合わせだったが、私と妻の伸枝は車で遠回りしてしまい、かなり遅刻。州人と遥太朗は百丈岩を目指して歩き出していた。

以前は道場駅から百丈岩の方へ向かう歩行ルートがいくつかあったのだが、現在は地図に示すように新名神高速道路が建設中で、その多くは通行できなくなっている。遥太朗たちを途中で拾って地点15まで車で行き、そこに駐車した。

15から地点5まで車が通れる平らな広い道を歩く。5には売店やトイレがあり、登山基地の趣だ。池があり、黒い鯉が生き生きと泳いでいた。そこにいた岩登り組の三人は百丈岩の登り場の方に、私達は一般ルートへ向かって地点5を出発、9時55分。ここから200米以上の尾根まで岩だらけの急坂を一気に登る。次頁左の写真。遥太朗は頑張って15分で地点6の尾根に着いた。

地点6から百丈岩の頂上部までは、比較的緩やかで前とくらべれば楽な道。下界や高速道路の工事の様子を登山道から眺めながら、そう苦勞せずに頂上部に着いた。10時26分だった。次頁中の写真は頂上部でくつろぐ三人。この左右は断崖。伸枝がいるとこういう写真が撮れる。この場所からは前頁の百丈岩の頂上へはすぐで、細い断崖の上の道を渡っていける。州人は前に渡ったそうだが、今回は危険そうなので渡らなかった。



急な岩塊を登る



百丈岩の頂上部で



ロープを使って下りる遙太朗

もう少し歩こうというので、更に北東に向かって地点 8 まで行った。この先は静ヶ池などへ行く道があるが、さらに歩くとかなりの時間がかかることが予想されるので、今回はここまで。

百丈岩から少し下りた地点で、岩登り組が百丈岩を登っているのに気がついた。その様子を撮った写真が前頁のものである。写真中央の赤が登攀中の人。

百丈岩から地点 6 までの間にロープを使って下りるところがある。遙太朗にロープの使い方を教えたらずぐに覚え、下りただけでは物足りなく、今度はロープを手繰って登り、もう一度下りる始末。右上の写真。これにはまいったね。子供は気に入ったことはすぐに覚える。

地点 6 からは、急な下りの地点 5 への道は使わず、地点 7 への道をたどった。比較的楽で 7 には 11 時 46 分到着。出発点の 15 には 11 時 55 分に事故なく無事に到着した。

昼食は、州人の妻の陽子さんと 2 才の璃海、5 ヶ月の晴人も加わって三田の料理店で食べた。遙太朗もこの山行は楽しかったようだ。みんなよく食べた。